

問1 13世紀後半、元との戦い（元寇）での恩賞が不十分だったことや、貨幣経済の浸透によって、多くの御家人が領地を質に入れたり売却したりして生活が困窮しました。こうした御家人を救済することを目的として、1297年に鎌倉幕府が出した法令を何といいますか。（2025年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 永仁の徳政令
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 公事方御定書

問2 鎌倉時代に栄西や道元によって広められた禅宗は、厳しい修行や座禅を通じて悟りを得ることを特徴としています。この教えが当時の武士たちの間で高く評価され、受け入れられた理由として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 阿弥陀仏の救いを信じて念仏を唱えるだけで救われるという、簡潔な教えだったため
2. 法華経こそが国を救う唯一の教えであると説き、幕府の権威を強固にしたため
3. 加持祈祷によって現世での病氣平癒や一族の繁栄を約束したため
4. 自らの精神を鍛え、厳しい規律を重んじる姿勢が、当時の武士の気風に合っていたため

問3 鎌倉幕府の三代執権である北条泰時が、一二三二年に制定した法令について述べた文として正しいものはどれですか。（2022年 高知県公立入試 類似）

1. 朝廷の律令制度を完全に否定し、天皇や貴族にも幕府の支配を徹底させるために作られた全国統一の法典である。
2. 武士の社会における慣習や道徳をもとに、裁判の公平な基準を示すために制定された最初の武家独自の法律である。
3. 元軍の侵攻のあと、恩賞を十分に得られず生活が困窮した御家人の借金を帳消しにするために制定された法律である。
4. 戦国大名が自分の領国内をより効率的に統治するために、独自に定めた「分国法」と呼ばれる法律の総称である。

問4 中世から近世にかけての武家政権の変遷について述べた文として、歴史的な事実関係が正しいものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 東大寺の再建を通じて武士の勢力交代が進み、地頭の設置よりも先に豊臣秀吉による太閤検地が行われ、幕府の支配権が確立した。
2. 承久の乱によって鎌倉幕府が滅亡した結果、戦国時代の混乱が始まり、その終焉とともに源頼朝が守護・地頭の設置を認めさせた。
3. 豊臣秀吉が全国を統一して地頭の権限を全国に広めた後、それに反発した後鳥羽上皇が承久の乱を引き起こした。
4. 源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。

問5 歴史の時代区分における「中世」という言葉の説明として、当時の政治的な特徴を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）

1. 武士が政治の表舞台に立ち、鎌倉幕府や室町幕府によって武家政治が行われた時代区分。
2. 徳川氏による全国支配が確立し、鎖国などによって長期間の平和が維持された時代区分。
3. 律令制度に基づき、天皇を中心とする中央集権的な国家体制が最も強固だった時代区分。
4. 開国が行われ、四民平等や憲法の制定などによって国家の近代化が推し進められた時代区分。

問6 鎌倉時代の僧侶である一遍が、諸国を巡りながら「南無阿弥陀仏」を唱えて踊ることで教えを広める様子を描いた絵巻物は何ですか。（2019年 愛媛県公立入試 類似）

1. 鳥獣人物戯画
2. 伴大納言絵詞
3. 信貴山縁起絵巻
4. 一遍上人絵伝

問7 承久の乱が起こった背景とその後の歴史的意義についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 宮城県公立入試 類似）

1. 源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。
2. 平氏を滅ぼした後の源頼朝の権威を恐れた朝廷が兵を挙げたが、地頭の反乱により幕府が崩壊し、再び天皇中心の政治に戻った。
3. 足利氏と新田氏が朝廷の権威を利用して鎌倉幕府を倒すために起こした戦いであり、この結果、建武の新政が始まった。
4. 執権の北条氏が実権を握ることに不満を持った御家人が上皇を担ぎ出して挙兵したが、幕府は敗北し鎌倉時代は終焉を迎えた。

問8 13世紀後半、モンゴル帝国（元）が二度にわたって日本へ侵攻してきた「元寇」の際、鎌倉幕府の最高責任者として、九州の御家人らへ軍役の指示を出し、京都や鎌倉の警備を指揮した人物は誰ですか。（2021年 福島県公立入試 類似）

1. フビライ・ハン
2. 北条時宗
3. 北条泰時
4. 源頼朝

問9 御成敗式目では幕府の役人の職務についても定められています。国ごとに置かれ、犯罪者の追捕や軍事・警察的な役割を担うとされた役職を選択してください。（2025年 和歌山県公立入試 類似）

1. 守護
2. 地頭
3. 問注所
4. 評定衆

問10 鎌倉幕府を支えた仕組みとして、将軍と御家人の間には、土地の権利を保証する代わりに軍役などの義務を果たすという、互恵的な関係が築かれていました。この中世武士社会の根本となった主従関係を何と呼びますか。（2021年 奈良県公立入試 類似）

1. 班田収授
2. 御恩と奉公
3. 身分統制
4. 封建制度

問11 鎌倉時代の政治体制において、「執権」という役職が果たした役割の説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 室町幕府において将軍を補佐し、足利一族の有力者が就任して政治を支えた。
2. 江戸幕府において将軍の直属として、臨時に最高職に就き国政を左右した。
3. 将軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。
4. 地方の軍事や警察の役割を担い、幕府から各国に派遣された役職である。

問12 鎌倉時代から室町時代にかけての日本の農業について述べた文として、当時の技術や社会背景をふまえて最も適切なものはどれですか。14世紀末の農業の様子を描いた絵巻物の記録などにに基づき、正しい内容を選びなさい。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 石包丁を用いて稲の穂の部分だけを摘み取る収穫方法が全国に広まり、食料生産が安定した。
2. 備中鍬と呼ばれる深く耕すための農具が発明されたことで、大規模な新田開発が幕府主導で進められた。
3. 海外輸出を目的とした製糸業が農村の副業として定着し、全国の耕地で桑の栽培が米よりも優先された。
4. 西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。

問13 モンゴル（元）の襲来を退けたにもかかわらず、その後の鎌倉幕府の支配が急速に揺らぐ原因となった背景として、正しい説明はどれですか。（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. 幕府が防衛のために重い税を全国の農民に課したことで、大規模な一揆が各地で頻発したため。
2. 襲来をきっかけに朝廷が政治の実権を取り戻し、幕府を倒すための兵を挙げたため。
3. 防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。
4. モンゴル軍との戦いを通じて、武士たちが幕府よりも天皇を重視する考えを持つようになったため。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>永仁の徳政令                                                           | 元寇の防衛戦は恩賞となるべき獲得領土がなかったため、幕府は戦費を負担した御家人に十分な賞与を与えることができませんでした。生活苦に陥った御家人が手放した領地を取り戻させることで、幕府の軍事力の基盤である御家人体制を維持しようと試みたのが永仁の徳政令です。                                                                                                 |
| 問2  | 答え 4<br>自らの精神を鍛え、厳しい規律を重んじる姿勢が、当時の武士の気風に合っていたため                          | 禪宗は、念仏のように他者の力（他力）に頼るのではなく、自分の努力で精神を高める「自力」の教えです。死と隣り合わせで戦い、日々の自己鍛錬を欠かさなかった武士にとって、禪宗のストイックな精神性は非常に共感しやすいものでした。これが、のちの武士道などの精神形成にも影響を与えることとなります。                                                                                 |
| 問3  | 答え 2<br>武士の社会における慣習や道徳をもとに、裁判の公平な基準を示すために制定された最初の武家独自の法律である。             | 承久の乱の結果、幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地の地頭と荘園領主（公家や寺社）の間で土地をめぐる紛争が激増しました。北条泰時は、武士たちに理解しやすく、かつ公平な裁判の基準を設けるために「御成敗式目」を制定しました。これは律令（公家法）とは異なり、武士の社会で行われていた慣習や「道理」を基準とした点が画期的でした。                                                           |
| 問4  | 答え 4<br>源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。    | 日本の武家政権は、12世紀末に源頼朝が鎌倉幕府を開いたことに始まります。1221年の承久の乱は幕府の支配力が全国化する重要な転換点となりました。その後、室町幕府や戦国時代を経て、16世紀末に豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼすことで天下統一を達成しました。承久の乱は豊臣秀吉の時代よりも約360年以上前の出来事であり、時代順序を正確に把握することが重要です。                                               |
| 問5  | 答え 1<br>武士が政治の表舞台に立ち、鎌倉幕府や室町幕府によって武家政治が行われた時代区分。                         | 中世は、土地の仲介を通じて主君と家臣が結びつく「御恩と奉公」のような封建的の制度が始まった時期です。それまでの天皇や貴族を中心とした「古代」の政治体制から、武士が実力で領地を支配し、独自の幕府政治を展開する時代へと変化したことが、この時代区分を定義づける重要な背景となっています。                                                                                    |
| 問6  | 答え 4<br>一遍上人絵伝                                                           | 鎌倉新仏教の一つである時宗をひらいた一遍が、全国を行脚して民衆に「踊り念仏」を説く姿を記録した作品です。当時の人々の服装や住居、風景などが写実的に描かれており、中世の社会を知るための貴重な歴史資料として評価されています。                                                                                                                  |
| 問7  | 答え 1<br>源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。 | 3代将軍の源実朝が暗殺されて源氏の将軍が途絶えたことをきっかけに、後鳥羽上皇は政権を朝廷に取り戻そうとして承久の乱を起こしました。しかし、北条政子（「頼朝の恩義」を訴えて御家人を団結させたことで幕府軍が圧倒し、結果として朝廷に対する幕府の優位が決定的になりました。この戦いの後、多くの御家人が西日本の土地の地頭に任命されたことは、全国的な武家社会の形成に大きな影響を与えました。                                   |
| 問8  | 答え 2<br>北条時宗                                                             | 鎌倉幕府の第8代執権であった北条時宗は、元の皇帝であるフビライ・ハンの服従要求を拒否し、文永の役・弘安の役の二度にわたる襲来に対して防衛体制を整えました。この際、幕府の権限を強め、九州に所領を持つ御家人たちに石築地（元寇防壁）の築設や警備を命じるなど、強力なリーダーシップを発揮しました。                                                                                |
| 問9  | 答え 1<br>守護                                                               | 御成敗式目では、守護の職務を「大番催促（警備の動員）」「謀反人の追捕」「殺害人の追捕」の三ヶ条（大犯三ヶ条）に限定し、それ以外の行政や司法への介入を制限しようとした。これに対し、地頭は各荘園・公領に配置され、土地の管理や年貢の徴収を担当しました。法を定めることで、これらの役職の権限を明確にする目的がありました。                                                                    |
| 問10 | 答え 2<br>御恩と奉公                                                            | 鎌倉幕府は、将軍が御家人の所領を保証する「御恩」と、御家人が将軍のために命をかけて戦う「奉公」という土地を介した強い絆によって成り立っていました。このような主従関係は、日本の中世社会における武士のあり方を象徴するものです。                                                                                                                 |
| 問11 | 答え 3<br>将軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。                              | 鎌倉幕府では源氏の将軍が3代で途絶えた後、北条政子の実家である北条氏が政治の中心となりました。北条氏は自ら将軍になるのではなく、将軍を名目上の存在とし、自らは執権として幕政を動かす「執権政治」を行いました。なお、選挙肢にある「管領」は室町幕府、「大老」は江戸幕府、「守護」は地方行政の役職であり、執権とは役割や時代が異なります。                                                            |
| 問12 | 答え 4<br>西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。             | 鎌倉時代、西日本から始まった二毛作は、農業生産力を飛躍的に高めました。これは夏に主食となる米を、冬には裏作として麦を育てる仕組みです。また、この時期には牛や馬に農具を引かせて田畑を深く耕す「牛馬耕」や、草木を焼いた灰を肥料にする「草木灰」の利用、灌漑用の水車の普及など、技術的な進歩が重なったことで中世の農業は大きく発展しました。選挙肢にある石包丁は弥生時代、備中鍬は江戸時代、製糸業の近代化は明治時代以降の特徴であるため、時代背景が異なります。 |
| 問13 | 答え 3<br>防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。                | 当時の武士にとっての恩賞は、主に敵から奪った土地を分配することでした。しかし、元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦だったため、新たに分け与える土地がありませんでした。多額の軍費を自己負担して戦った御家人たちは、十分な報いを受けられなかったことで生活が困窮し、幕府への不信感を強めていきました。                                                                               |